

第2学年（生活科）の実践

1. 単元名 もっとなかよし まちたんけん

2. 単元目標

○町の人や場所と繰り返し関わることに関心をもち、親しみや愛着をもって話したり、いっしょに活動したりしようとする。【関心・意欲・態度】

○地域で生活したり働いたりしている人々と自分たちとの関わりについて考え、表現することができる。 【思考・表現】

○地域で生活したり働いたりしている人々の地域への思いや自分たちが暮らす地域の良さに気付く。
【気付き】

3. 学習活動について

(1) 児童について

(略)

(2) 教材について

本単元は、学習指導要領生活の内容（３）「地域と生活」をもとに構成した。身近な地域に出かける活動を通して、自分たちの住む町に親しみを持ち、自分の生活との関わりに気づいていくことをねらいとしている。

本単元では、1 学期単元「ときどきわくわくまちたんけん」で得た情報や児童の思いをもとに、「もっと詳しく知りたい場所」を決め、グループごとに町探検の計画を立て、実際に地域に出かける。そして、地域で生活している人や働いている人と関わる中で、その人たちの思いや工夫などに気づき、地域の人ともっと関わりたいという思いをもち、さらに活動を進めていくことができるように町探検を 2 回行うように単元構成をする。町探検では、インタビューや写真撮影などをグループごとに行う。ルールやマナーを守って安全に行動すること、相手の身になって話したり聞いたりすることなど、社会生活において大切なことを学べる機会ともなっている。

また、活動や取材したことを振り返り、自分なりに整理したり、そこでの気づきをグループ内や他のグループの友達に伝え合ったりする学習活動を充実させることで、地域の人と自分たちの生活との関わりや地域の良さに気づくことができるようにする。これは、内容（８）「身近な人々と伝え合う活動」の「他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で、これらとともに生きる自分への自信をもたせる」こととつながっている。ただし、次単元「つたわる広がるわたしの生活」での表現活動との接続を意識して、本単元での表現活動はあまり大がかりな発表とはしない。

(3) 指導にあたって

【研究の視点(1) ①教材・学習課題との出会いの場の工夫について】

本単元への興味・関心をもたせるために、1学期単元「ときどきわくわくまちたんけん」での発見カードから、「もっと仕事のことをよく知りたい。」「〇〇屋さんの話を聞いてみたい。」というものを紹介する。児童は、自分が思いもしなかったことに対して友達が疑問や興味をもったことに驚いたり、共感したりすることと思う。この時、発見カードの内容が理解しやすいように関連する写真も見せる。また、学習の振り返りカードの「町を歩いてみて初めて知った建物について調べたい。」といった内容のものも紹介し、1学期と同じ場所だけでなく、初めて行く場所もあることを知らせ、探検を楽しみにする気持ちへとつなげたい。

【研究の視点(1) ②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

1学期単元「ときどきわくわくまちたんけん」と次単元「つながる広がるわたしの生活」を含めた大きな学習の流れを提示し、さらに個々の単元でのゴールを明確にすることで、児童がそれぞれの学習のめあてを自覚して取り組めるようにしていきたい。学習計画は模造紙に書いて掲示し、いつでも見られるようにしておく。学習の途中でも、今やっていることが次の学習へどうつながっていくかが分かり、安心して、また、めあてに意識を集中して学習に取り組めると考える。

本単元のゴールは、グループごとに分かったことや考えたことをまとめ、他のグループに教えることである。そして、そのまとめをもとに、木次っ子発表会で、2年生として「まちたんけん発表会」をすることを次単元「つながる広がるわたしの生活」のゴールとして位置付ける。スモールステップを踏むことで活動内容を具体化し、児童がそれぞれの活動の中で自分の思いや考えをはっきりともち、自分なりの表現ができるようにしていきたい。また、友達、家族、地域の人と、伝える相手が広がっていくことは、「分かりやすく伝えたい」という思いとなって、表現方法の工夫など、より主体的な学習へとつながっていくものと考ええる。

【研究の視点(2) ①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

〈ワークシート〉

それぞれの活動に自分がどう取り組んでいくのかが意識づけられていないと、活動が次につながらず、ただの活動で終わってしまう。まずは町探検に対する自分の思いや考えを意識できるように、個人思考の時間をとり、ワークシートに書くようにする。ワークシートに書いたものは学習の途中でも書画カメラで提示し、考えが浮かばない児童が参考にしたり、書き終わった児童が自分のものと比較し、書き加えたりできるようにする。グループでインタビュー内容を検討するときにも、個人思考で書いたワークシートを見せ合うことで、話し合いがしやすくなると思われる。また、似ているものを集約したり、自分の考えたものが生かされたりしてグループのインタビューカードが出来上がっていくことで、町探検への意欲も増すであろう。

町探検後のまとめでも、まずは個人の発見カードを書かせ、それをもとに、グループで新たな疑問を見出したり、みんなに伝えたいことを決めたりできるようにしたい。発見カードを書くときには、町探検のことを思い出しやすいように、インタビューカードや各自が撮った写真を持たせる。

【研究の視点(2) 思考や表現に結びつくような学習の場の工夫】

〈グループ活動〉

単元を通して町探検のグループでの活動が主となるので、学習のねらいが達成できるように、グループのメンバーは児童の探検したい場所の希望を聞いた後、インタビュー内容やリーダー性、対人関係などを考慮して、指導者が決める。訪問する場所が5か所（上代鍛冶屋、木次薬局、八日市交流センター、中村鮮魚店、木次郵便局）なので、グループの人数は5～6人にする。

学習場面では、個人思考(個人作業)とグループ活動(話し合い、探検、発表など)が交互に来るような形になる。グループの話し合いでは、個人思考のワークシートをもとに、誰もが意見を言ったり、似たような意見をまとめたりできるように、机間指導しながら助言をする。

実際の町探検では児童だけで行動することになるので、お互いに協力し合うことはもちろんだが、リーダーや時計係など、一人一人に役割をもたせることで、町探検への意欲を高めたい。また、安全面や取材時のマナーなどについて児童に考えさせた上で事前指導を行う。当日は、町探検の内容や注意点等をまとめたものを携行させ、不安を感じても自分たちの力で町探検が進められるようにする。

〈言語活動の工夫〉

町探検では、インタビュー内容を事前に考えていくが、実際にその場所を見たり話を聞いたりして思いついたことも聞いてよいことにする。予め決めていたことだけでなく、その場その場で考え、表現することを体験してほしいと思っている。自分では考えが浮かばない児童も、グループで行動することで、他の児童からの刺激を受けることができると思う。

本単元のゴールはグループごとの発表だが、先にも述べたように新聞、パンフレットなどの形ある物にまとめ直すのではなく、写真や絵をもとに、口頭で発表するような形で行おうと考えている。それでも、「どの写真、絵を使うか。」「どのような内容で話すか。」「どんな順番で話すか。」など、グループで伝えたい内容を吟味することが必要になってくる。個人で考えたものをもとにグループで話し合う時間をしっかりとって、自分たちの驚きや地域の人の思いを他のグループに分かりやすく伝えてほしい。発表内容だけでなく、声の大きさや話す速さなど、相手を意識して発表することができるように、話し方のめあてをもって練習に取り組ませたい。

〈振り返りの場の設定〉

探検後の振り返りを個人でした後、グループで共有し、新たな探検のめあてがもてるようにする。本時では、発見カードと振り返りカードを関連して扱い、2回目の町探検への意欲付けを図るとともに、1回目の反省を生かして町探検をしようとする気持ちをもたせたい。2回目の探検を行うことで、地域の人との関わりをさらに深め、それらの人々の地域への思いや願いに気づけるようにしたい。

【ICTの活用について】

〈書画カメラ〉

ワークシートの記入の仕方、発見カードや振り返りカードの紹介など、書画カメラを使って行う。どこに何を書くかが分かりやすくなったり、友達が書いている内容を視覚的にとらえたりできるので、意欲的に学習に取り組もうとするのではないかと考える。

町探検の振り返り（本時）やグループごとの発表の際にも、探検した場所や関わった人が他のグループにも分かりやすいように書画カメラで写真や絵を映す。

〈デジタルカメラ〉

町探検では、児童が訪問した場所で必要な写真が撮れるように、デジタルカメラを携行する。事前に図工や学活の時間にデジタルカメラの使い方を指導しておくが、生活科でのデジタルカメラの使用は本単元が初めてなので、写真を撮ることと、撮った写真を確認することのみをさせる。自分で写真を撮ることで、「写真に写したい大切なところはどこか。」など、知りたいことにより意識を集中させて取り組むことができるのではないかと考える。

〈ビデオ映像〉

町探検の地図は模造紙に書いて掲示したり、携帯できるものを児童に配ったりするが、グループでの町探検に際して行程が分かりやすいように事前にビデオに撮った八日市の街並みを見せる。建物等の目印になるものを見ることで、町探検への不安感を軽くすることができると思う。

また、児童の町探検の様子をビデオに撮っておき、本時の導入の際に見せる。町探検をした時の気持ちを思い出したり、友達の様子がわかったりすることで、学習への意欲付けとなると考える。

4. 本単元で身につけたい力

地域の人と関わり、友達と伝え合う活動を通して、地域への親しみや愛着をもつことができる。

5. キャリア教育の視点

知りたいことを見つけ、知るための方法を考えて、実際に行動に移すことができる。

(課題対応能力)

6. 指導計画と評価計画 (全13時間・本時8/13)

次	時	主 な 学 習 活 動	評 価			
			関	思	気	主な評価規準 (評価方法)
Ⅰ 町探検の計画	1・2	1学期の町探検からもう一度行ってみたい場所を話し合う。 - 行きたい場所や聞きたいことを話し合い、町探検のグループを決める。	○			これまでに行った場所や関わった人に関心をもち、町探検を楽しみに思っている。(行動観察・発言)
	3・4・5	- グループごとに聞きたいことを確認し、通る道、役割、持ち物、探検のめあてや約束など、探検の計画を話し合い、計画表に書く。 - 町探検の流れや約束などを確認する。		○		相手や場に応じた行動を考え、探検の計画を立てたり、準備をしたりしている。(ワークシート・発言)
Ⅱ 町探検	6・7	- 計画に沿って、グループで町探検に出かける。 - インタビューしたり、写真を撮ったりする。		○		相手や場、状況に応じて適切な行動について考えて、地域の人と関わっている。(行動観察・ワークシート)
		町探検を振り返って発見カードや振り返りカードを書く。			○	地域の人工夫や技に気付いている。(ワークシート)
Ⅲ 町探検2	8本時・9	1回目の探検を振り返って、もう一度詳しく見たり聞いたりしたいことをグループで相談する。 1回目の反省を生かして2回目の探検の計画を立てる。	○			1回目の探検の結果をもとに、新たな視点をもって計画を立てようとしている。(行動観察・ワークシート)
	10	グループごとに計画に沿って探検に行き、インタビューしたり、一緒にできることをしたりする。			○	地域の人地域への思いや願いに気付いている。(発言・ワークシート)
Ⅳ まとめ	11・12	- 探検で関わった場所や人について、他のグループの友達に伝える準備をする。 - 写真や絵を見せながらかわった人や場所について発表し合う。		○		探検で見つけたことの中から伝えたいことを選び、友達に分かりやすいように話している。(行動観察・発表)
	13	地域の様々な場所や地域の人たちと自分たちの生活とのかかわりについて話し合う。			○	地域には様々な場所があり、様々な人が生活していることが分かり、それらと自分たちの生活との関わりに気付いている。(発言・ワークシート)

7. 本時の学習

(1) 目標 1 回目の探検をもとに、聞きたいこと・もっとよく見たいところをグループで話し合
って見つけようとする。(関心・意欲・態度)

(2) 展開

学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○)・評価 (【 】) ICT 活用
1. 町探検をビデオ映像や写真で振り返る。 ・町探検、楽しかったな。 ・友達は今なところに行っていたんだ。 ・あれは何だろう。 ●発見カードや振り返りカードから「聞きたいこと・もっとよく見たいこと」などをいくつか紹介する。 グループで、聞きたいことやもっとよく見たいところを話し合って、2 回目の探検の計画を立てよう。 2. グループで発見カードを見せ合い、見つけたことを整理する。 ・同じことが心に残ったんだ。 ・自分と違うところが気になったんだね。 3. もっとよく知りたいことを話し合い、2 回目の探検の計画を立てる。 ●振り返りカードに書いているものを見せ合う。 ・どうして、○○しているんだろう。 ・どんな気持ちでやっておられるかな。 ・○○を見たかったな。 ●意見を出し合い、グループの考えをまとめる。 ・同じ意見はまとめて書こう。 ・ほかに聞いておくことはないかな。 4. グループごとに 2 回目の町探検でどんなことを知りたいか、発表する。 ・みんなも知りたいことがいろいろあるんだな。 ・分かったことをみんなで教え合いたいな。 5. 学習のまとめをする。 ・次の町探検が楽しみだな。 ・○○のことがもっとよく分かるといいな。	○学習への意欲付けを図るために、町探検のときの様子を映したビデオ映像や児童が撮った写真を見せる。 ○発見カードや振り返りカードの内容が分かりやすいように書画カメラで映す。 ○時間がなくて聞けなかったことや、発見カードを書きながらもっとよく見ておくとよかったと思ったことがなかったか問いかけ、本時の学習への意識付けを図る。 ○学習の流れが分かりやすいように、話し合いの順序を提示する。 ○自分たちで撮った写真を持たせ、発見カードの内容を確認できるようにする。 ○一人一人の考えを聞いた後、グループ全体で意見を整理し、まとめることができるようにワークシートを持たせる。 ○知りたいことが出にくいグループのために、話し合いが進んでいるグループでどんな意見が出たか紹介する。 ○ワークシートの内容が分かりやすいように書画カメラで映す。 【関・意・態】聞きたいこと・もっとよく見たいところを考え、話し合おうとしている。(ワークシート・行動観察) ○2 回目の町探検に向けての意欲を高めるために、お互いの思いを共有し合う。 ○町探検を楽しみに思えるように、話し合いのよかった点を認めたり、知りたい気持ちに共感したりする。

(3) 本時の評価

十分満足と思われる児童の姿	概ね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
聞きたいこと・もっとよく見たいところを自分で話し、友達の意見を聞いてグループの話し合いを進めようとしている。	聞きたいこと・もっとよく見たいところを言ったり、友達の意見を聞いたりしている。	話し合いに入りにくい児童には、友達や他のグループのワークシートを見て、自分の考えに近いものを見つけるように促す。

(4) 授業の視点

- グループでお互いの振り返りカードを見て話し合ったり、他のグループの考え（ワークシート）を書画カメラで見たりしたことは、聞きたいことやもっとよく見たいところを引き出すために有効だったか。

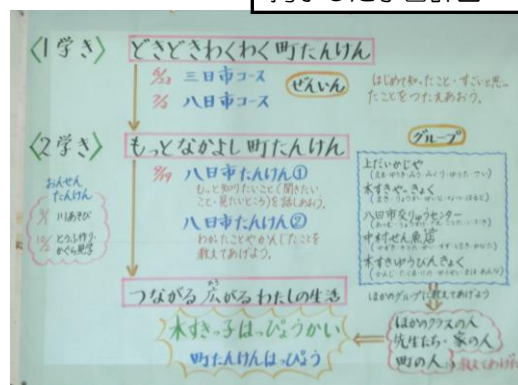
8. 指導の実際と考察

(1) ねらいや学習課題、学習の流れの明確化…研究の視点(1)―②

本単元「もっとなかよし町たんけん」は、1学期単元「どきどきわくわくまちたんけん」と次単元「つながる広がるわたしの生活」を含めた大きな学習の流れの中に位置している。個々の単元のゴールを明確にし、児童がそれぞれの学習のめあてを意識して取り組めるように学習計画を模造紙に書いて掲示した。

本単元のゴールは、グループごとに分かったことや考えたことをまとめ、他のグループに教えることとした。そして、木次っ子発表会で、2年生として「まちたんけん発表会」をすることを次単元「つながる広がるわたしの生活」のゴールとして位置付けた。児童は前後の単元との関連を意識しながら学習を進めていった。また、友達から家族・地域の人へと伝える相手が広がっていくことが、「分かりやすく伝えたい」という思いとなって、相手に合わせた表現方法の工夫につながった。

掲示した学習計画

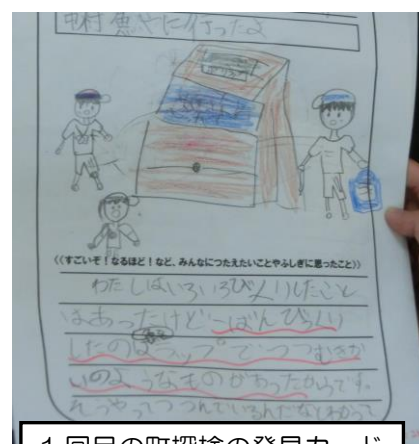


(2) 個人思考を深める手立てや位置づけの工夫…研究の視点(2)―①

〈ワークシート〉

町探検はグループ単位での活動になるが、一人一人が町探検に対する自分の思いや考えをしっかりと持つことが大切だと考え、活動の前後に個人でワークシートを書く時間をとった。

1回目の町探検の後、児童は発見カードに、「みんなにつたえたいことやふしぎに思ったこと」を書いた。また、振り返りカードには、「ルールやマナーで気をつけたいこと」「もっと知りたいこと（聞きたい・よく見たい）」を書いた。本時では、この1回目の町探検の発見カードや振り返りカードを見せ合いながら、さらに知りたいこと、聞きたいことをグループで話し合った。話し合いの糸口となるように、発見カードや振り返りカードには、教師の問いかけや助言を書き添えた。児童は、お互いの発見カードの内容や教師の記述を読み、意見を出し合って、2回目の町探検に向けたインタビューカードを書く

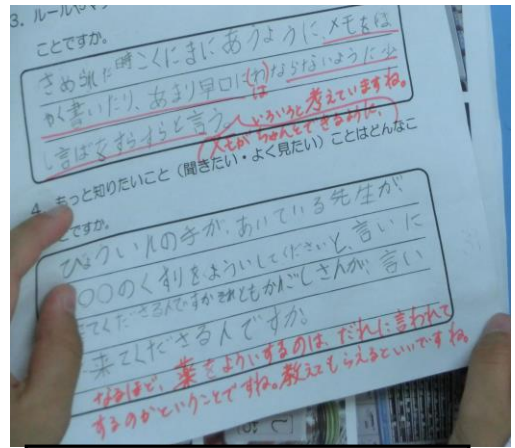


1回目の町探検の発見カード

いていった。

2 回目の町探検の後には、振り返りカードと町探検発表会に向けて、「学びゅうの友だちにぜひ教えてあげたいこと」を書くワークシートを準備した。

一人一人が自分の思いや考えをもつことで、グループでの話し合いで自分の意見を進んで話そうとしたり、自分と友達の考えを比べて聞こうとしたりした。さらにグループで話し合うことで、自分の考えを確認したり、友達の意見を取り入れてグループの活動の方向性を定めたりすることができるようになった。また、ワークシートを効果的に活用することで、2 年生なりの「主体的で対話的で深い学び」につなげていくことができると感じた。



1 回目の町探検の振り返りカード

(3) 思考や表現に結びつくような学習の場の工夫…研究の視点 (2)

〈グループ活動〉

本時では、(2)でも述べたように、2 回目の町探検に向けた話し合いをグループごとに行った。発見カードと振り返りカード、さらに 1 回目の町探検時の写真をもとに、話し合いを進めていった。話し合いの流れは各グループに任せたので、発見カードを順番に発表し合っているグループや発見カードを回して読み合っているグループ、初めから振り返りカードの内容を発表し合っているグループなどいろいろであった。

司会は特に決めなかったが、それぞれのグループで、進行の役割を果たす児童がいたり、友達の意見に自分の意見を重ねたりしながら話し合いを進めていた。

木次薬局チームの話し合いでは、C1 が自然に進行役を務め、他の児童も友達の意見に応えたり、自分の意見を言ったりしている。ただ、いろいろな意見をどうまとめればいいのか、児童にはまだ難しい部分であり、声かけやまとめ方の例示など教師の支援が必要であった。



木次薬局チームの話し合い



発見カードを読み合っているところ

【木次薬局チームの話し合いの様子から】

- C1: 気になったことを発表しよう。ぼくは何で穴がいっぱいあるのかなと思ったよ。(写真を指差しながら) 入るところや出るところかな？
- C2: 薬の袋に朝、昼とか、名前がついていたけど、そこにほかにも何か書いてあったのが、気になったよ。
- C3: 薬の袋はもともと切れているのかな。後から自分で切るのかな。
- C4: 見ておけばよかったね。
- C2: 見たいことも書こうよ。
- C3: 粉の薬を入れた後、お皿はどうなっているか。
- C1: 質問がある人？
- C4: どんな薬を用意するか、病院の手が空いている先生が言いに来るのか、看護師さんが言いに来るのかな。
- C3: 紙に書いてあるって言うておられたよ。でも、誰が持って来るのかな。

本時では、グループの話し合いの途中で、次の町探検につながるような話し合いをしていた八日市交流センターチームに、話し合いの様子を紹介してもらった。

【八日市交流センターチームの話し合いの様子】

- C1: 2階でどんなことをしておられるか、聞かなかったよね。
 C2: わたしは、1階で女の人がどんな仕事をしておられるか聞いてみたいよ。
 C3: じゃあ、その二つを今度行ったときに聞いたらいいんじゃない。
 C4: ぼくは、早口で話されるとよく分からなかったよ。
 C1: 分からなかったときは、もう一度ゆっくり言ってくださいってお願いするといいね。



話し合いの様子を発表する
八日市交流センターチーム

探検する場所が違うので、他のグループが考えたことをそのまま自分のグループに当てはめることはできないが、話し合いの糸口を見つけたり、自分たちもがんばろうという意欲を引き出したりすることにつながったと思う。グループの話し合いをそこで終わらせず、全体で共有する時間を設け、さらにそこから各グループが活動に向けての課題を焦点化していけるようにすることで、より学習を深めていけると感じた。

(4) ICT の活用について

＜デジタルカメラ＞

町探検のとき、グループごとにデジカメを持ち、児童が写真を撮った。カメラ担当が写真を撮ることにしていたが、グループの児童は「ここ撮って。」と写真を撮ってほしいところを担当の児童に伝えていた。教師が撮った写真から必要な物を選ぶのではなく、自分たちが必要だと思うところを写真に撮るため、知らせたいところにより意識を集中させて見学したり、お互いに声をかけ合ったりする意欲的な姿が見られた。

＜書画カメラ＞

本時の導入では、各グループの活動の様子を写した写真や発見カード・振り返りカードを書画カメラで映し、第1回目の町探検の様子を振り返った。他のチームの活動への興味が湧いたり、調べたことを教え合うことへの意欲が高まったりしたように思う。

2回目の町探検後の学級内での発表会では、「見せる写真を3枚に絞って、特に伝えたいことを発表する」ことにした。児童は選んだ写真に合わせて、発表内容を文章化し、3枚の発表原稿を作って、それを見ながら練習をした。発表練習のときから、写真を書画カメラで映すことで、どのように映すと見ている人に分かりやすいか、どのタイミングで写真を入れ替えるかなど、本番の発表をイメージして取り組むことができた。



書画カメラで町探検の写真を提示しているところ



書画カメラの映り具合を確かめながら、発表練習をしているところ

(5) 成果と今後の課題

今回の実践で、教師が書画カメラなどのICT機器を効果的に使うことで、児童の学習意欲が高まったり、学習に取り組みやすくなったりすることが分かった。また、児童がICT機器を使うことで、より主体的に学習に取り組もうとすることに手応えを感じた。ただ、学習の基本は児童が自分の考えをもち、友達と交流し合って自分の考えを深め、それにより学級全体が高まっていくことである。学習課題とどう向き合わせるか、小集団の話し合いをどう組織化していくか、学習過程にICT機器のよさをどう生かしていくか、今後も実践を積み重ね、児童のよりよい学びにつなげていきたい。